

はれぞら ガイドブック

平素より当社大玉トマト「はれぞら」をご利用ご愛顧頂き、誠にありがとうございます。
本ガイドブックでは、「はれぞら」の特長をご紹介しますとともに、「はれぞら」の長期どり栽培（越冬栽培）における栽培時のポイントを栽培前期・中期・後期の三つに分けてご紹介致します。

目次

はれぞらの特長 (page 1)

栽培前期のポイント (page 2)

- ✓ 初期の草勢を抑え気味に
- ✓ 草勢が強すぎる状態とは？
- ✓ 草勢が強くなりすぎてしまったら…
- ✓ 露地作型のフィルム展張後の注意点

栽培中期のポイント (page 3)

- ✓ 栽培中期の管理のポイント
- ✓ 草勢が低下してしまったら…
- ✓ 露地定植 → ハウスフィルム展張後の注意
- ✓ 栽培中期に注意する病害

栽培後期のポイント (page 4)

- ✓ 栽培後期の管理のポイント <2～3月>
- ✓ 栽培後期の管理のポイント <3～6月>
- ✓ 黄変果について
- ✓ 栽培後期に注意する病害



はれぞらの特長

✓ 黄化葉巻病耐病性

イスラエル、マイルド両系統に対して安定した耐病性を持つ

✓ 草勢が強め

スタミナ切れすることなく越冬時も成り疲れしにくい、
また越冬後も安定した収量が見込める

✓ 早生

採れ始めが早いため年内の収量が確保できる
果房の収穫上がり早く、収穫のタイミングが揃う

✓ 肥大性が良い

大きな果実で高収量が見込める
特に低温期の果実肥大性に優れる

✓ 食味と硬さの両立

果実が硬く輸送性や店もちに優れ、食味食感も非常に良い



栽培前期のポイント（定植期～11月頃まで）

✓ 初期の草勢を抑え気味に

- 極端な若苗定植は避ける。特に露地栽培の場合は基肥の減肥が必須。
- 活着後の灌水を控えめにすることで、暴れさせないようにする。
- 花数はやや少なめかつ早生なので、ホルモン処理は間隔を短めにすること。
低段を確実に着果させることで草勢のバランスが取りやすくなる。
- カリウム要求性の高い品種であるため、葉先枯れ対策として、基肥および追肥は従来品種よりもカリウム成分を2割程度多めに施用することが望ましい。

✓ 草勢が強すぎる状態とは？

- 葉や花房の先端から生長点が出る、茎径が異常に太くなっている等といった場合は、草勢過多となっている。



葉から生長点が出る



花房の先から生長点が出る



がく周りから二次的に果実がつく

- 下の写真のように、生長点に一番近い開花花房のすぐ下の茎径を観察することで、草勢を診断することができる。



診断の目安：

栽培初期の茎径は 1.0cm くらいが適正。
茎径が 1.5cm を超えるようであれば草勢が強くなりすぎている。

- 草勢が強すぎる場合、着果負荷が最大に近づく 6～7 段開花頃から葉先枯れを生じることがある。

✓ 草勢が強くなりすぎてしまったら…

- 窒素成分中心の追肥や灌水をやや控えめに設定する。
- 露地作型のように、水分コントロールが難しい圃場で草勢が強くなり過ぎてしまった場合は、以下のような方法で草勢を抑える。
 - ① 草勢に応じて下葉を3～5枚前後摘み取る。
 - ② 側枝をやや大きめ（30cm 前後）にしてから強剪定する。

✓ 露地定植 → ハウスフィルム展張後の注意（※九州などでの事例）

- フィルム展張後、ハウス内の湿度が急激に上昇することによって、つやなし果や小さい裂皮（がさ玉果）の発生が助長される場合がある。その対策として日中に適度な換気を行うと同時にハウス内温度の確保に努める。
- 品種特性上、フィルムを展張してハウス環境へ移行したときに、着果負荷が急激にかかり草勢が低下することが予想される。そのためフィルムを展張する前から安定した草勢の維持を念頭に置き、追肥開始のタイミングが遅れないように注意する。

栽培中期のポイント（11月～翌年2月頃まで）

✓ 栽培中期の管理のポイント

- 極端な灌水や追肥は避ける。はれぞらは窒素や水分に対する反応が早く草勢が強くなり過ぎる場合がある。そのような場合は上記の栽培前期のポイント（2ページ）項を参照して管理を行う。
- 気温の低下に伴い収穫のサイクルが緩やかになってくる。それに伴って追肥や灌水のタイミングも徐々に遅らせるように管理する。
- 収穫開始間際に着果負荷が最大となり、それ以後もその状態が継続していく。厳寒期に向けては、着果負荷に応じて少量多回数の追肥や灌水を行い、やや強めの草勢の維持に努める。
- 葉先枯れやすじ腐れ果の予防のため、追肥を行う時は初期の段階からカリウム（K）を通常よりも2割程度多めに施用する。特に曇天が続く場合、窒素成分中心の追肥は上記症状を助長することがあるので注意する。
- 日中の温度が低いと地温が上がり切らず根の動きが緩慢になり、カリウムや苦土の欠乏を助長する。
- 日中及び夜間の温度管理は共にやや高めの管理を行う。日中の換気は25～28℃を目安に管理し、夜温は12℃程度の温度設定で加温することが望ましい。



窒素過多及び日照不足によるすじ腐れ果



カリウム欠乏による葉先枯れ

✓ 草勢が低下してしまったら…

- 日照量や温度の低下と同時に、着果負荷がかかることで草勢が低下することがある。
- 過剰な下葉欠きを避け、適切な葉枚数と果数で草勢維持に努める。
- 花房直下枝の本葉を一枚残した状態で摘芯し、葉枚数を増やすことで必要な葉面積を確保する。
- 下葉欠きと誘引作業の間は **1～2 日間隔を置き** ストレスを分散させることが望ましい。

✓ 栽培中期に注意する病害

- ハウス内の湿度が上がり低温期に向かう条件では、**灰色かび病**に注意する。葉先枯れ患部の除去や適切な農薬散布を心掛ける。また芽欠きや葉欠きなどの管理は晴天時に行い、患部をよく乾かす。
- またこの時期には**疫病**の発生に注意する。発生すると一気にハウス内に蔓延するので適宜予防を行う。
- 抵抗性を打破する**葉かび病**に注意。近年、耐病性因子 Cf-9 を打破する**葉かび病**の発生が見られる。はれぞらは Cf-9 を有する品種であるが、ハウス内の湿度を適度に調整し予防を徹底する。



葉先枯れから侵入する灰色かび病



葉の裏側に発生している葉かび病

栽培後期のポイント（2月～6月頃まで）

✓ 2～3月の管理のポイント

- 気温の上昇に伴い収穫のサイクルも早くなってくるため、追肥や灌水のタイミングが遅れないように注意する。
- 少量多回数での灌水管理を心掛ける。ハウス内の湿度が高い状態で一度に大量の灌水を行うと、霜降り果や軟化玉を助長する。
- 早朝加温を行うことで、果実表面の結露やハウス内温度の急上昇を避け、ガサ玉の発生を抑える。
- 慣行品種よりもカリウムに対する要求度が高い品種のため、カリウムの追肥は2割前後多めに施用する。

✓ 3～6月の管理のポイント

- 日中にハウス内が高温になりすぎないように適宜換気を行い、しおれの発生を防ぐ。
- ホルモン処理を行う場合は、早生で花数が少なめの品種であることに注意し中 3～4 日程度で回るとよい。
- ホルモン濃度を濃くしすぎると、先尖りや乱形果を助長するため、気温の上昇に従って濃度を薄めていく。
- 草勢の強めの品種であるため、摘芯後の定期的な追肥は控え着果負担に応じた肥培管理を心掛ける。過剰に追肥を行うと、栄養成長に傾き小玉果や品質低下を招く恐れがある。
- 日射が強まってくると、葉面積が大きい方が有利となる。草勢が弱く果実が露出してしまう場合は、側枝を利用し葉面積を増やす。

✓ 黄変果について

- 日照量が増える時期に、**果実の肩の部分**が黄色くなり商品価値を低下させることがある。
- 果実のグリーンショルダー部分の葉緑素が分解されず、赤く着色しないことで発生する。
- 果実の表面温度の過熱やカリウム欠乏が要因となる。

✓ 黄変果の対策

- 日中の遮光により果実に直射日光が当たることを避ける。
- または、果実に直射日光が当たる場合は、側枝でリーフカバーを作ることによって予防できる。
- 下葉欠きや摘葉を控えめにし、収穫最終段よりも1段高い節位で摘芯することで葉枚数と葉面積を確保する。



黄変果



果実が露出する場合、遮光することが望ましい



葉面積を維持できている

✓ 栽培後期に注意する病害

- 栽培後期には株疲れしやすくなるため、各種病害の発生リスクが高まる。
- 日射が増え、やや乾燥する機会が増えると、うどんこ病の発生が増える。
- 栽培中期と同様、葉先枯れからの灰色かび病の発生には注意が必要となる。
- 黄化葉巻病に耐病性であるが黄化病の耐病性はないため、コナジラミの防除を徹底する。



発生初期のうどんこ病



黄化病

～「はれぞら」に最適な台木が新登場～

スタミナと青枯病の強耐病性を両立した複合耐病性トマト用台木

F1 足じまんキーパー

- ✓ 初期の草勢をコントロールして、低段の裂果や異常茎などの生理障害を低減します。
- ✓ 長期栽培でもスタミナを維持して安定した草勢を維持します。



品種特性	
栽培特性	・ 初期の草勢は中程度であるが、スタミナがあるため栽培中期以降からやや強めに維持できる。 ・ 低温伸長性に優れ直根と浅根のバランスが良く、長期栽培の通期で草勢が安定し、高い果実品質を維持することができる。
耐病性	・ 褐色根腐病と青枯病の耐病性を併せ持つ複合耐病性のためオールシーズンの作型に適する。ただし、強度に青枯れ病に汚染された圃場においては発病の恐れがあるので十分に注意する。 ・ 萎凋病レース1、レース2、および近年広がりを見せる新レース3に強い耐病性を持つ。 ・ ToMV (Tm-2)、半身萎凋病レース1、根腐萎凋病に強い耐病性を持つ。 ・ ネコブセンチュウに耐病性中程度。

あっぱ
矢晴れ!

真打ち登場!!

F1 はれぞら



ヴィルモランみかど株式会社
〒267-0056 千葉市緑区大野台1-4-11
TEL:043-311-6100 FAX:043-205-5503
<http://www.vilmorinmikado.jp>

ヴィルモランみかどはリマグレングループの一員です。

Limagrain